

基準9. 教育研究環境

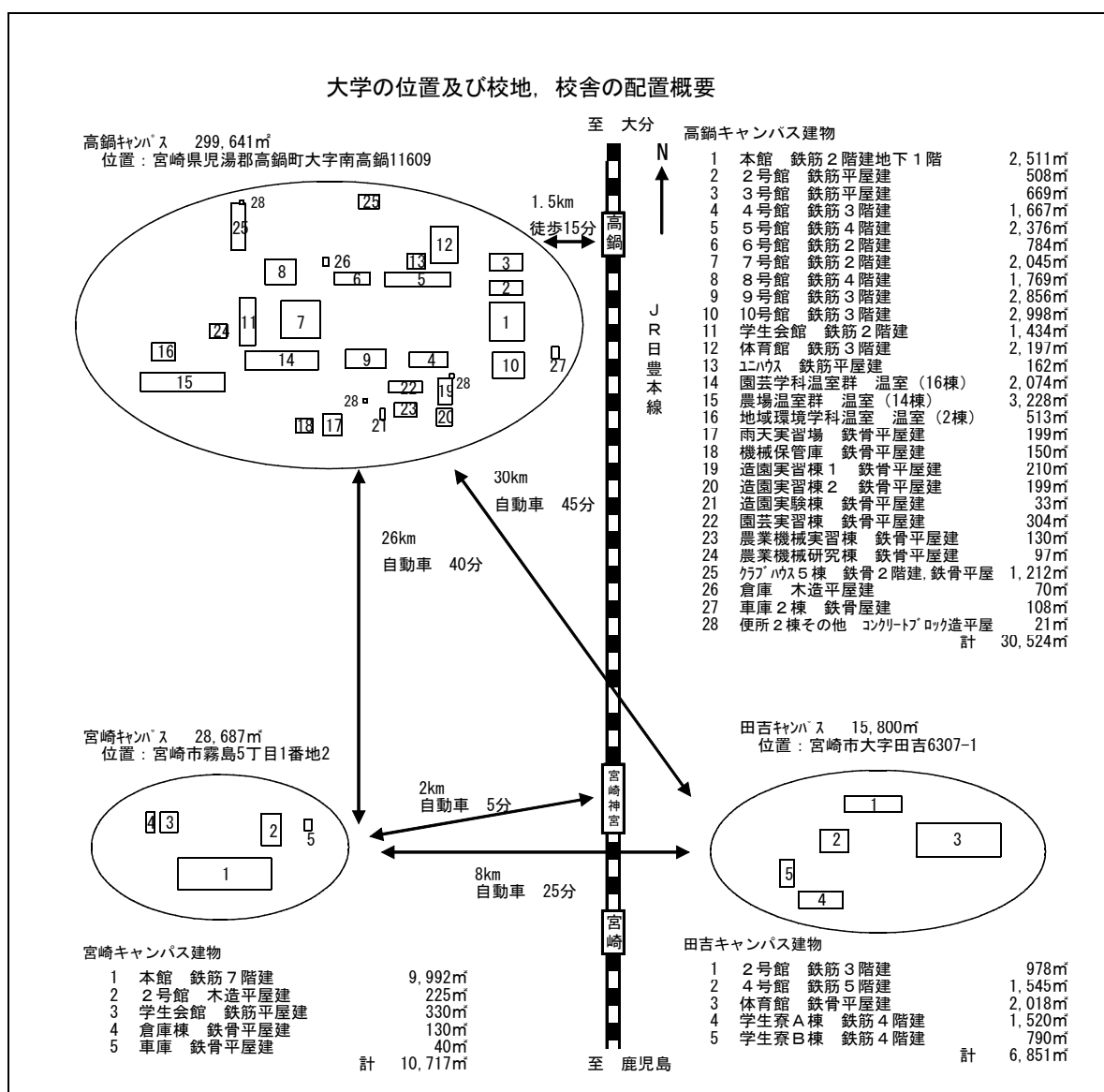
9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

(1) 事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

本学は図9-1-1に示すように、高鍋キャンパスに園芸学部、環境造園学部、宮崎キャンパスに健康栄養学部を有しそれぞれ施設設備を整備している。また、体育施設として田吉キャンパスを利用している。

図9-1-1 南九州大学キャンパス配置図



キャンパスごとの主要施設の概要は表9-1-1のとおりである。

表9-1-1 南九州大学主要施設・設備概要

1. 高鍋キャンパス

名 称	建物面積(㎡)	構 造	主要施設
本館	2,511	鉄筋2階+地下1階	事務室・学長室・会議室・資料室・教員研究室・大学院生室・保健室・学生相談室・非常勤講師室
2号館	508	鉄筋平屋	武道場
3号館	669	鉄筋平屋	武道場・教員研究室
4号館	1,667	鉄筋3階	教員研究室・教員実験室・学生実験室・演習室・大学院生室・X線回析分析室・環境分析室・植物標本室・学生多目的室・精密機材室・パソコン室・会議室
5号館	2,376	鉄筋4階	講義室・情報処理演習室
6号館	784	鉄筋2階	講義室・教員研究室・教員実験室
7号館	2,045	鉄筋2階	図書館・教員研究室・実習室・セミナー室
8号館	1,769	鉄筋2階	講義室・ラウンジ
9号館	2,856	鉄筋3階	教員研究室・教員実験室・演習室・学生実験室・大学院生室・分析室・恒温室・機器室・培養室・無菌室・会議室
10号館	2,998	鉄筋3階	教員研究室・教員実験室・学生実験室・学生実験活動室・設計製図室・造園模型室・造園デザイン室・大学院生室・講義室・学生交流室・会議室
学生会館	1,434	鉄筋2階	学生食堂・売店・ラウンジ・研修室・多目的ホール・和室・同窓会室
体育館	2,197	1部鉄筋3階	
ユニハウス	162	鉄筋平屋	教員実験室
園芸学部 温室群	2,074	鉄骨平屋	温室(16棟)・作業室・ボイラー室
農場温室 群	3,228	鉄骨平屋	温室(14棟)・作業室・ボイラー室
地域環境 学科温室	513	鉄骨平屋	温室(2棟)・倉庫
雨天実習 場	199	鉄骨平屋	造園実習場

機械保管庫	150	鉄骨平屋	造園機械保管庫
造園実習棟 1	210	鉄骨平屋	事務室・造園倉庫・倉庫・車庫
造園実習棟 2	199	鉄骨平屋	造園機械庫・造園倉庫・更衣室
造園実験棟	33	鉄骨平屋	実験室
園芸実習棟	304	鉄骨平屋	園芸実習室・農具室・保冷室・肥料室・更衣室
農業機械実習棟	130	鉄骨平屋	農業機械室
農業機械研究棟	97	鉄骨平屋	農業機械実験室
クラブハウス 5棟	1, 212	鉄骨 2階(3) 鉄骨平屋 ブロック平屋	クラブ室
倉庫	70	木造平屋	倉庫
車庫	108	鉄骨平屋 (2)	車庫
便所その他	21	ブロック平屋 木造平屋	便所(2) 更衣室
グラウンド	運動場 1 (野球・ラグビー)、運動場 2 (サッカー・陸上)、テニスコート、アーチェリー場、弓道場		

2. 宮崎キャンパス

名称	建物面積(m ²)	構造	主要施設
本館	9, 992	鉄筋 7階	学園事務局・情報処理演習室・学生食堂・実習室・実習食堂・理事長室・応接室・会議室・保健室・カウンセラー室・研修室・図書館・講義室・短大教員研究室・健康栄養学部教員研究室・学生自習室・演習室・コールラボ室・実験室・培養室・食品健康学科事務室・精密機器室・標本室・助手室
2号館	225	木造平屋	講義室
3号館	170	鉄筋平屋	華道室・茶道室
学生会館	330	鉄筋平屋	大学学友会室・短大学友会室・多目的室
倉庫棟	130	鉄骨平屋	整備員室・倉庫
車庫	40	鉄骨平屋	車庫

【図書館】

昭和 42（1967）年に南九州大学附属図書館として開館し、平成 15（2003）年度の宮崎キャンパス開設時に、南九州大学・南九州短期大学図書館（以下「宮崎図書館」という。）と南九州大学高鍋図書館（以下「高鍋図書館」という。）に分離した。

宮崎図書館は南九州短期大学との共用館で、専任職員 1 人と臨時職員 1 人で運営され、約 25,000 冊の図書と 400 種の逐次刊行物を所蔵している。延べ利用者数は約 37,000 人、年間貸出冊数は 3,000 冊となっている。

高鍋図書館は専任職員 2 人と臨時職員 1 人で運営され、約 90,000 冊の図書と 2,600 種の逐次刊行物を所蔵している。延べ利用者数は約 30,000 人、年間貸出冊数は 3,200 冊となっている。図書館長は宮崎図書館と高鍋図書館にそれぞれ 1 人ずつ選任され、図書課長は事務局学務部長が兼任している。

キャンパス間は専用サーバを介し、インターネットで接続されている。平成 14（2002）年度に全所蔵資料の電子化を完了し、Web 対応の OPAC システムを運用している。また、NACSIS-CAT、ILL、電子ジャーナル等の利用、各大学との相互協力等により教育研究活動を支援している。

【体育施設】

宮崎キャンパスには運動場・体育館施設がなく、南九州短期大学跡地である田吉キャンパスの施設を利用している。学生の移動のためにチャーターバスを運行している。田吉キャンパスには運動場、テニスコート、ゴルフ練習場、体育館が設置されている。

高鍋キャンパスには運動場 2 面、テニスコート、体育館、武道館 2 棟、弓道場、アーチェリー場が設置されている。両キャンパスとも体育施設は地域住民に開放している。

【情報サービス施設】

学内 LAN は回線障害によるネットワーク切断を回避するため、SINET 経由及び民間経由のマルチ・プラットフォームとしている。アンチ・ウイルス対応のメールサーバを設置し、申請によりすべての教職員・学生にメールアカウントを与えている。その他にファイルサーバ、TV 会議用サーバ等を設置し、教育研究活動及び日常業務にネットワークを活用している。

情報処理施設として、宮崎キャンパスは情報処理演習室（コンピュータ 60 台）、コール・ラボ室（コンピュータ 30 台）を設置している。情報処理演習室は主として授業に利用されるが、コール・ラボ室は学生の自学自習にも開放されており、授業外で年間 2,400 時間利用されている。

高鍋キャンパスは情報処理演習室（コンピュータ 60 台）を設置している。年間の利用状況は、授業による利用が約 360 時間、授業外の利用が約 1,650 時間となっている。

【附属施設等】

高鍋キャンパスには園芸学部附属農場と環境造園学部実習場を設置している。農場の総面積は約 7.3ha で、花卉、蔬菜及び環境保全関係の圃場、果樹園、農業機械実習場、管理棟、温室、倉庫棟を備えている。実習場の総面積は約 11.3ha で、育成圃場、樹木園、日

本庭園、山林・竹林、管理棟、実習棟、雨天実習場、機会保管庫、温室、倉庫棟を備えている。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

施設設備等の維持管理については、学科、附属施設、事務局等の管理責任部門により日常的に点検がなされている。学内委員会としては、環境整備委員会、改革委員会があり、大学全体の運営等について検討・審議している。事務処理は清掃等の委託業務を含め備品管理、施設の改造・改修・補修、警備、防犯、防災、衛生及び環境美化等について財務部管財課が管理している。

宮崎キャンパスでは管財課専従職員による屋外施設の維持管理を行っている。健康栄養学部の特質から、とくに衛生管理に留意し、HACCP 対応の給食経営管理実習室や学生食堂などを中心に清潔な環境を作っている。

高鍋キャンパスは、園芸学部、環境造園学部教員の専門知識を生かした指導により、除草、芝生の維持管理、樹木の剪定整枝、植物の生育管理、花壇の花美化を季節に応じて行っている。また、農場・実習場については、専属の技能員や委託作業員による維持管理作業が行なわれている。更に実習教育の一貫として、造園学科の学生による維持管理作業が行なわれている。

(2) 9-1の自己評価

平成 15 (2003) 年に宮崎キャンパスが完成し、2 キャンパス体制となった。校地面積の増加は約 1 割であるが、講義室、演習室等の施設の充実が図られ、両キャンパスともに高等教育にふさわしい社会環境、自然環境を有している。

平成 8 (1996) 年から現在までに高鍋キャンパスで整備された主要な施設として、視聴覚システムを完備した 8 号館講義等、9 号館園芸学科研究棟、ガラス温室、10 号館造園学科研究棟がある。また、7 号館図書館棟の大規模な改修等により、教育研究環境が大幅に充実した。平成 8 (1996) 年と比較すると、講義室は 12 室から 19 室、演習室 (情報処理演習室等を含む) は 7 室から 28 室へと増加した。また、研究室併設の専攻演習室も量的拡充が図られた。

教育研究施設設備は大学設置基準を十分に満たしているが、より充実した教育を行うためには、年次計画による整備が必要である。

(3) 9-1の改善・向上方策 (将来計画)

宮崎図書館は短大との共用のため、閲覧スペース、座席数にゆとりがない。施設の拡張を検討する。また、高鍋図書館も含め、教育研究支援のためには更に資料・電子ジャーナル等の整備が不可欠であり、予算の増加を要求する。

体育施設は宮崎キャンパスの体育館建設を建設中である。

情報サービス施設としては、ネットワーク環境及び情報処理施設の面では高等教育機関の標準的なレベルでの整備は完了している。しかし、大学全体の教育研究活動への IT 技術の活用法としては改善の余地があると考えている。具体的には、キャンパス間の遠隔授業等を含めた e ラーニング技術の開発・修得、ポータルシステムの導入、学内外への情報発信源としての研究成果等のデータベース化を検討する。

また、平成 21（2009）年度の都城キャンパス開設による整備を実施する。

9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 事実の説明（現状）

9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

宮崎キャンパスの施設は平成 15（2003）年に建築されているので、耐震構造等安全性に問題はない。本館はスロープ、身障者トイレ、エレベーター、自動ドア、点字ブロックを備え、施設のバリアフリー化に対応している。

高鍋キャンパスの 5、6、7 号館は、改正建築基準法以前に建築されたものであるが、現在まで詳細な調査を行っていない。今後構造等の調査を実施し対策を講ずる予定である。また、バリアフリー、身障者用設備についてもすべての施設が対応している状況ではないので、改善を検討したい。

アスベスト問題については、以前調査し無害と診断されていた 7 号館図書館書庫等を最新の定性分析法（電子線マイクロアナライザー）と定量分析（X線解析法）で再調査した。その結果、壁面吹き付けロックウールに基準値 1 重量%以下ではあるが、微量のアスベストが検知された。含有量は人体に影響を及ぼす危険性はほとんどなく、壁面は飛散防止対策も講じられて被爆の可能性は低かったが、学生・教職員の健康に配慮し平成 17（2005）年 11 月すべてを撤去した。

9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

宮崎キャンパスは農林水産省蚕糸試験場跡地に建設され、2,8687 m²の敷地に 7 階建て本館と回廊を配したクアドラングル（quadrangle）を中心に配置し、ゆとりある空間を創成している。造園工事は本学造園学科 OB 共同体により施工され、定植されていた相当の樹齢木を生かし周辺の緑化環境に調和するように配慮した。専任教員は 1 人あたり約 27 m²の研究室と専攻指導室または教員実験室の 2 室を使用している。

高鍋キャンパスは 299,641 m²の敷地に事務棟・教育棟・研究棟（1 - 10 号館）、体育館、武道場、学生会館、附属農場・実習場を設置している。建物は広々とした中庭を中心に方形に配置され、メインストリート沿いに植生されたフェニックス、ワシントンニアパームが南国情緒を醸成している。附属施設だけでなくキャンパス全体が実習のフィールドとして利用できる環境となっている。専任教員は 1 人あたり約 33 m²の研究室と専攻指導室または教員実験室の 2 室（園芸学科は第二実験室を含め 3 室）を使用している。

(2) 9-2の自己評価

平成 15 (2003) 年度宮崎キャンパス開設に伴い、大学全体の敷地及び校舎面積が拡大し、教員・学生 1 人あたりの施設専有面積が増大している。高鍋図書館は平成 16 (2004) 年度の改修工事の結果、延面積が約 1.5 倍増の 1,350 m²となり、書庫・閲覧、AV・OPAC スペースが増え利用者の好評を得ている。

両キャンパスとも教育研究施設の充実だけでなく、専門分野の技術を活用し環境緑化に取り組んでいる。立地条件は郊外と市街との違いはあるが、それぞれの特性を生かしたキャンパスづくりとなっている。

(3) 9-2の改善・向上方策 (将来計画)

両キャンパスとも警備員は常駐しているが、敷地が広く出入り口も複数箇所あるため、アクセスフリー状態となっている。防犯用具の設置や安全講習は実施しているが、特に市街地型で女子学生の多い宮崎キャンパスは不審者出没情報もあり、防犯カメラの設置等を含めより一層安全対策を講じる。

[基準 9 の自己評価]

ここ 10 年来施設・設備・機器・備品等のハード面では新設、更新、改修に尽力し、全体的に教育研究目的を達成するための条件を充足し、更に快適なキャンパスライフを送れるエコ・パーク・キャンパスが実現できたと考える。美化も含めて施設も適切に管理されている。

[基準 9 の改善・向上方策 (将来計画)]

宮崎キャンパスは体育施設の建設、講義室の増設、駐車場の確保を計画し、一部は既に進行中である。

本学は平成 21 (2009) 年、宮崎県都城市に公私協力方式で都城キャンパスを開設する。都城キャンパスには高鍋キャンパスの学部学科を改組し、移転する予定である。高鍋キャンパスは在学生の卒業を待って廃止となるが、整備されたキャンパスの諸施設については、引き続き都城キャンパスの補完的位置づけとして、実習合宿、サークル合宿等と本学で活用していく予定である。又広大な敷地であるので、その一部は公益的利用として行政機関等の第 3 者からの要望があれば、跡地利用策の一つとして検討していきたい。

開設する都城キャンパスは某大学の撤退した跡地である。2 年かけて約 10ha の敷地に実学教育にふさわしい施設を建設整備していく。人口 2 万人の街の田園地帯、丘陵部に位置する高鍋キャンパスに対して、人口 17 万人の市街地、平地に位置する都城キャンパスではキャンパス建設整備面で差別化戦略をとり、大学全体として両キャンパスの持ち味を享受していきたいと考える。